

## 平成25年6月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成25年2月7日

上場会社名 株式会社サニーサイドアップ 上場取引所 大  
 コード番号 2180 URL http://www.ssu.co.jp  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 次原 悦子  
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 グループ管理本部 (氏名) 川寄 将一 TEL 03-6894-3233  
 本部長  
 四半期報告書提出予定日 平成25年2月13日 配当支払開始予定日 ー  
 四半期決算補足説明資料作成の有無： 有  
 四半期決算説明会開催の有無： 有 機関・個人投資家向け

百万円未満切捨て

### 1. 平成25年6月期第2四半期の連結業績（平成24年7月1日～平成24年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年6月期第2四半期	7,257	53.8	539	152.5	574	161.4	370	105.0
24年6月期第2四半期	4,719	7.3	213	△19.1	219	△17.9	180	33.4

(注) 包括利益 25年6月期第2四半期 400百万円 (123.6%) 24年6月期第2四半期 179百万円 (30.2%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年6月期第2四半期	107.93	104.26
24年6月期第2四半期	53.26	—

(注) 当社は、平成24年12月11日付で普通株式1株につき4株の株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり四半期純利益及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益を算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
25年6月期第2四半期	5,523	1,920	32.5
24年6月期	4,845	1,498	29.7

(参考) 自己資本 25年6月期第2四半期 1,795百万円 24年6月期 1,437百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年6月期	—	0.00	—	30.00	30.00
25年6月期	—	0.00	—	—	—
25年6月期(予想)	—	—	—	7.50	7.50

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

(注) 当社は、平成24年12月11日付で普通株式1株につき4株の株式分割を行っております。これに伴い、平成25年6月期(予想)の期末配当については当該株式分割の影響を考慮して記載しております。

### 3. 平成25年6月期の連結業績予想（平成24年7月1日～平成25年6月30日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	12,109	16.7	575	80.0	613	77.5	356	65.3	103.94

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：有  
新規 1社（社名）bills waikiki LLC、除外 1社（社名）  
（注）詳細は、添付資料3ページ「2. サマリー情報（注記事項）に関する事項（1）重要な子会社の異動の概要」をご覧ください。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有  
（注）詳細は、添付資料3ページ「2. サマリー情報（注記事項）に関する事項（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	25年6月期2Q	3,438,400株	24年6月期	3,428,800株
② 期末自己株式数	25年6月期2Q	1株	24年6月期	1株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	25年6月期2Q	3,430,183株	24年6月期2Q	3,390,400株

（注）当社は、平成24年12月11日付で普通株式1株につき4株の株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して発行済株式数（普通株式）を算定しております。

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期報告書のレビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期報告書のレビュー手続を実施しています。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報 .....	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報 .....	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報 .....	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項 .....	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 .....	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	3
3. 四半期連結財務諸表 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	8
(4) 継続企業の前提に関する注記 .....	9
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	9
(6) セグメント情報等 .....	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間の当社グループは、「創造型PR商社」への事業構造転換を掲げた中期経営計画の第2期目として、既存事業の収益性向上とともに新規プロジェクトの開発に積極的に取り組みました。

既存の受託型ビジネス領域では、近年のクライアントニーズの高まりを受け、ソーシャルメディアを活用したコミュニケーションサービス提供への注力が収益に貢献いたしました。また、グループの基幹事業であるコミュニケーション事業とSP・MD事業においては、ソリューションの強化と積極的な提案活動の結果として、大型案件を複数受注するなどし、着実に売上を拡大、収益性向上にも取り組んでおります。

新規の創造型ビジネス領域では、育児中の女性をターゲットとしたSNS「ママゴト」の運営・マネタイズが順調に進んでおります。また、bills事業においては、既存国内店舗は継続的なPR活動により計画以上の集客を達成。初の海外展開として今春にオープンを予定しているハワイ店の準備を進めるとともに、マーチャンダイジングビジネスにも着手しており、事業のさらなる拡大を見込んでおります。

当該案件含め、その他にも受託型領域におけるクライアントワークで培ったノウハウを強みとした新規ビジネスの開発にも積極的に取り組んでおります。その結果、売上高7,257百万円（前年同期比53.8%増）、営業利益539百万円（同152.5%増）、経常利益574百万円（同161.4%増）、四半期純利益は370百万円（同105.0%増）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

#### ①コミュニケーション事業

インターネット領域において、昨今高まるクライアントニーズを受けソーシャルメディアを活用した案件の受注拡大、また、育児中の女性をターゲットとしたSNS「ママゴト」のセールスが順調に進捗しており、さらに、新規事業戦略立案のコンサルティングを新たに受注するなど、当該領域は今後更なる成長を見込んでおります。そして、特にプロモーション領域においては、ファミリーマートと初音ミクのコラボキャンペーンといった全国大型販促案件の受注規模が大幅に拡大し、コミュニケーション事業の増収増益に大きく貢献しております。その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は1,974百万円（前年同期比87.8%増）となりました。

#### ②スポーツ事業

現在のスポーツ事業の指針として、肖像権を中心とする従来型の「アスリートマネジメント」領域だけでなく、当社グループのPRやコンテンツ開発といった事業ノウハウやこれまで構築した国内外のネットワークを活かしてスポーツに関する様々なビジネスを行う「スポーツプロモーション」領域に積極的にリソースを投下しており、事業構造のシフトを図っております。当第2四半期連結累計期間においては、大型スポーツイベントやプロスポーツチームのPR・プロモーション、アメリカでのスポーツビジネス研修等を実施いたしました。なお、前第2四半期連結累計期間に実施しました番組制作及び放映枠の販売といった大型案件が終了したことと肖像権契約が減少した結果、売上高は減少しておりますが、新たな収益モデルの開発や新規案件の獲得が進み利益率は改善しております。その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は、488百万円（前年同期比37.5%減）となりました。

#### ③開発事業

当社グループの開発事業は、アスリート以外のスペシャリストとの共同事業開発等、グループ独自の事業を創造することを主とした事業展開を行っております。また、現在は不採算分野を縮小撤退し高収益が見込まれるビジネスへの選択と集中を進めております。また、平成24年7月に設立した株式会社クムナムエンターテインメントの業績を当該セグメントに計上しております。その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は52百万円（前年同期比31.7%増）となりました。

#### ④SP・MD事業

積極的な営業活動の結果として、頻繁にCMで放映されるような外食・情報通信・自動車等業界の各種大型キャンペーンにおけるプレミアムアイテムの受注規模が大幅に拡大しました。また、MD領域では収益性向上を目指しクライアントとの直取引を強化しており、連結子会社であるWIST INTERNATIONAL LIMITEDグループの製造体制強化とともに、幅広いニーズへの対応に成功した結果、大手玩具メーカーからのOEM受託が順調に伸びました。その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は3,629百万円（前年同期比68.0%増）となりました。

⑤bills事業

当社所属スペシャリスト、ビル・グレンジャー（Bill Granger）を活用した七里ヶ浜、横浜赤レンガ倉庫、お台場、表参道でのレストラン「bills」の運営を行っており、継続的に店舗PR・ブランディングを推進している成果として、各店舗ともに期首計画以上の売上で推移しております。グローバル展開を推進する中でのハワイ店舗今春オープンに向けた準備を進めるとともにマーチャンダイジングビジネスにも着手しており、今後の事業業績向上が期待されます。その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は1,113百万円（前年同期比63.1%増）となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第2四半期連結会計期間末における資産合計は、5,523百万円（前連結会計年度末比677百万円増）となり、資産の内訳につきましては、流動資産が3,887百万円（同564百万円増）、固定資産が1,636百万円（同112百万円増）であります。また、負債合計は、3,602百万円（同255百万円増）となり、負債の内訳につきましては、流動負債が2,944百万円（同108百万円増）、固定負債が657百万円（同147百万円増）であります。純資産合計は、1,920百万円（同422百万円増）となりました。

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）の残高は、1,290百万円（前連結会計年度末より440百万円増）となりました。

各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は以下のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間において営業活動により得られた資金は680百万円（前年同期は291百万円の支出）となりました。主な要因としましては、売上債権の増加額167百万円、仕入債務の増加額357百万円、前渡金の減少額191百万円、棚卸資産の増加額87百万円、為替差益53百万円によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間において、投資活動により支出した資金は195百万円（前年同期は131百万円の支出）となりました。これは、billsハワイ店の開店における取得を含む有形固定資産の取得による支出168百万円、敷金及び保証金の差入による支出32百万円が主な要因であります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間において、財務活動により支出した資金は93百万円（前年同期は368百万円の収入）となりました。これは、短期借入金の純減額290百万円、長期借入れによる収入347百万円、長期借入金の返済による支出156百万円、配当金の支払額25百万円によるものであります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

通期の業績予想の修正につきましては、平成25年1月24日に公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」において修正を行っております。今後、当該連結業績予想に修正のある場合には速やかに開示してまいります。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

当第2四半期連結累計期間において、bills waikiki LLCを新たに設立したため、連結の範囲に含めておりません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用については、当第2四半期連結累計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

3. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年6月30日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	849,452	1,290,111
受取手形及び売掛金	1,951,648	2,140,779
商品及び製品	957	3,414
未成業務支出金	117,571	198,412
原材料及び貯蔵品	9,582	13,897
その他	401,626	242,494
貸倒引当金	△8,768	△2,050
流動資産合計	3,322,070	3,887,058
固定資産		
有形固定資産		
土地	520,818	520,818
その他(純額)	625,163	704,302
有形固定資産合計	1,145,981	1,225,120
無形固定資産		
のれん	13,342	12,511
その他	25,361	21,410
無形固定資産合計	38,703	33,922
投資その他の資産		
その他	365,695	406,553
貸倒引当金	△27,274	△29,504
投資その他の資産合計	338,420	377,049
固定資産合計	1,523,106	1,636,092
資産合計	4,845,176	5,523,150
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	982,570	1,346,737
短期借入金	1,140,232	849,890
1年内返済予定の長期借入金	210,240	260,365
未払法人税等	50,546	153,730
資産除去債務	—	1,542
その他	452,880	332,677
流動負債合計	2,836,469	2,944,942
固定負債		
長期借入金	344,995	485,620
資産除去債務	47,342	46,771
その他	118,307	125,463
固定負債合計	510,644	657,855
負債合計	3,347,114	3,602,797

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年6月30日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	435,720	437,221
資本剰余金	496,320	497,821
利益剰余金	507,191	851,721
株主資本合計	1,439,231	1,786,764
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,008	1,006
為替換算調整勘定	△2,479	7,678
その他の包括利益累計額合計	△1,471	8,685
少数株主持分	60,301	124,903
純資産合計	1,498,061	1,920,353
負債純資産合計	4,845,176	5,523,150

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成23年7月1日 至 平成23年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成24年7月1日 至 平成24年12月31日)
売上高	4,719,074	7,257,900
売上原価	3,957,929	6,163,457
売上総利益	761,145	1,094,443
販売費及び一般管理費	547,428	554,840
営業利益	213,716	539,602
営業外収益		
受取利息	55	58
受取配当金	32	129
為替差益	—	32,082
受取家賃	29,023	19,418
その他	1,475	8,791
営業外収益合計	30,587	60,480
営業外費用		
支払利息	7,730	8,514
持分法による投資損失	—	564
為替差損	5,707	—
売上債権売却損	3,619	7,152
貸貸費用	7,131	9,463
その他	396	25
営業外費用合計	24,585	25,718
経常利益	219,717	574,364
特別利益		
固定資産売却益	505	—
特別利益合計	505	—
特別損失		
固定資産除却損	44	—
減損損失	—	32,009
特別損失合計	44	32,009
税金等調整前四半期純利益	220,179	542,355
法人税等	37,363	151,666
少数株主損益調整前四半期純利益	182,815	390,688
少数株主利益	2,219	20,443
四半期純利益	180,595	370,245



(四半期連結包括利益計算書)  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年7月1日 至平成23年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年7月1日 至平成24年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	182,815	390,688
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△270	△1
為替換算調整勘定	△3,310	10,158
その他の包括利益合計	△3,580	10,157
四半期包括利益	179,234	400,846
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	177,982	375,053
少数株主に係る四半期包括利益	1,252	25,792

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成23年7月1日 至 平成23年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成24年7月1日 至 平成24年12月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	220,179	542,355
減価償却費	40,464	52,517
減損損失	—	32,009
のれん償却額	1,934	1,922
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△1,014	△4,488
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	△16,000	△22,500
受取利息及び受取配当金	△55	△188
支払利息	7,730	8,514
為替差損益 (△は益)	4,177	△53,447
持分法による投資損益 (△は益)	—	564
固定資産除却損	44	—
固定資産売却損益 (△は益)	△505	—
売上債権の増減額 (△は増加)	△66,117	△167,377
たな卸資産の増減額 (△は増加)	89,505	△87,613
前渡金の増減額 (△は増加)	△132,996	191,266
その他の資産の増減額 (△は増加)	△19,878	△30,754
仕入債務の増減額 (△は減少)	△166,576	357,213
未払金の増減額 (△は減少)	△12,175	△12,399
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△12,625	8,556
前受金の増減額 (△は減少)	△61,022	△41,841
その他の負債の増減額 (△は減少)	△85,301	△35,086
小計	△210,234	739,223
利息及び配当金の受取額	23	141
利息の支払額	△7,007	△7,312
法人税等の支払額	△74,386	△51,677
法人税等の還付額	—	23
営業活動によるキャッシュ・フロー	△291,604	680,398
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△110,411	△168,712
有形固定資産の売却による収入	505	—
無形固定資産の取得による支出	△11,998	△340
貸付けによる支出	△3,900	—
敷金及び保証金の差入による支出	△22,436	△32,012
敷金及び保証金の回収による収入	22,668	1,088
その他	△6,085	4,566
投資活動によるキャッシュ・フロー	△131,658	△195,410
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	282,694	△290,342
長期借入れによる収入	200,000	347,300
長期借入金の返済による支出	△88,744	△156,549
株式の発行による収入	—	3,003
少数株主からの払込みによる収入	—	38,095
配当金の支払額	△12,525	△25,445
リース債務の返済による支出	△12,910	△9,532
財務活動によるキャッシュ・フロー	368,514	△93,471
現金及び現金同等物に係る換算差額	△7,124	49,140
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△61,872	440,658
現金及び現金同等物の期首残高	1,035,462	849,452
現金及び現金同等物の四半期末残高	973,589	1,290,111

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(6) セグメント情報等

I 前第2四半期連結累計期間（自平成23年7月1日 至平成23年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント						その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	コミュニケ ーション 事業	スポーツ 事業	開発 事業 (注) 4	S P・MD 事業	bills 事業	計				
売上高										
外部顧客 への売上 高	1,050,993	781,950	39,846	2,160,362	682,836	4,715,988	3,085	4,719,074	—	4,719,074
セグメン ト間の内 部売上高 又は振替 高	8,500	—	—	41,064	—	49,564	7	49,572	△49,572	—
計	1,059,493	781,950	39,846	2,201,427	682,836	4,765,553	3,093	4,768,647	△49,572	4,719,074
セグメント利 益又は損失 (△)	224,295	78,315	4,237	79,243	27,880	413,972	△1,654	412,317	△198,601	213,716

(注) 1. 「その他」の区分は、当社が運営する飲食事業を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失の調整額の内容は以下のとおりであります。

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間
セグメント間取引消去	5,627
全社費用(注)	△204,228
合計	△198,601

※全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

4. 平成23年6月期より、bills事業が当セグメントから独立しておりますが、継続してスペシャリストや当社ネットワークを活用した新たな事業の企画開発を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間（自平成24年7月1日 至平成24年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント						調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	コミュニケーション事業	スポーツ 事業	開発 事業	S P・MD 事業	bills 事業	計		
売上高								
外部顧客への 売上高	1,974,033	488,477	52,467	3,629,161	1,113,760	7,257,900	—	7,257,900
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	231	—	376	142,723	1,235	144,567	△144,567	—
計	1,974,265	488,477	52,844	3,771,885	1,114,995	7,402,468	△144,567	7,257,900
セグメント利益 又は損失(△)	350,385	55,307	△22,625	240,904	105,214	729,186	△189,584	539,602

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額の内容は以下のとおりであります。

(単位：千円)

	当第2四半期連結累計期間
セグメント間取引消去	3,148
全社費用(注)	△192,732
合計	△189,584

※全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

「コミュニケーション事業」セグメントにおいて、東京ソラマチに出店しておりました、「ブースター・カフェ・レント・ア・バイシクル・バイ・スコット」を平成25年6月までに閉店することといたしました。なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間においては32,009千円であります。